

高度情報社会の進展を支えるセキュリティ技術

Security Technologies to Support Evolution of Highly Sophisticated Information Society

巻頭言

総合力が求められるサイバーセキュリティの実現

Realization of Cybersecurity Requiring Full-Scale Efforts

2013年6月、政府の情報セキュリティ政策会議は、わが国の情報セキュリティに関する新たな国家戦略の年次計画として「サイバーセキュリティ 2013」を発表しました。その対象は狭義のサイバー空間を超えて、サイバー空間と連動する物理系や人間系まで含んでおり、法律や、制度、組織、教育、啓発、国際連携など、技術以外の側面にも幅広く言及しています。サイバーセキュリティ 2013はセキュリティを大局的に捉えるうえでたいへん参考になるとともに、サイバーセキュリティ実現に向けた総合的な取組みに対するわが国としての決意を、強く印象づけています。

東芝グループも広義のサイバーセキュリティの実現に向けた技術開発に長年にわたり取り組んでおり、東芝レビューで情報セキュリティの特集を定期的に組むようになってから数えても約17年が経過しています。長年にわたり取り組んでいる主な理由は、社会ニーズの変化により情報セキュリティ技術の新しい適用対象が増え続けていることと、同じシステムであっても攻撃が高度化するのに伴い新たな対策が必要になることが挙げられます。変化する社会ニーズに応えるためには継続的な取組みが不可欠です。

例えば、筆者が従来、ICチップのセキュリティの実現という目的で取り組んできた研究は、対象システムがM2M (Machine to Machine) や、組込システム、車載システムなどに拡大しつつあります。また、技術研究組合 制御システムセキュリティセンター (CSSC) の取組みに象徴される重要インフラへのICT (情報通信技術) の適用拡大も大きな変化です。更に、量子暗号は、現在普及している暗号方式とは異なる原理に基づく暗号であり、社会ニーズに応えるために対策技術自体が変化しつつある事例です。東芝グループはこれらの技術を顧客のニーズに応えるソリューションとしていち早く提供するために日々取り組んでいます。

サイバーセキュリティの実現には総合力が必要です。東芝グループが提供するソリューションが将来にわたってそのセキュリティを維持するためには、システムの状況把握やメンテナンスの提供も行う必要があります。顧客や関連組織と連携して、真に安全なシステムの実現に向けてこれからも努力していきたいと考えています。

この特集では、社会インフラシステムの根幹を支えるセキュリティ技術とその要素技術、及び携帯端末システムを守るセキュリティ技術について、東芝グループの技術開発の取組みの一端を紹介します。



川村 信一
KAWAMURA Shinichi